



満開の桜の中、「春の野点」でお茶会を行ないました。

人財育成へのチャレンジ

医療技術部長
野口 昭

寒暖の差が激しかった3月が終わり、一気に春が到来してきました。この春で部長職として1年が経ちます。ふり返ると業種が異なる部署で勤務していた私が、栄養課、薬剤課、そして検査課で構成される医療技術部を取りまとめるように仰せつかり、どのようにまとめていくか試行錯誤の1年間でした。そこで共和会の大切な「人財」として、専門的な業務を行ないながら人間的に更に成長するために、どのように支援出来るか考え実践してきました。

まず、私から各部署に足を運び、積極的に世間話などをしながら職員との距離を縮めていくことから始めました。部下と上司のコミュニケーションマニュアルに書いてあるかのように順調に進んできましたが、私が心配していたことが徐々に起こりました。これは私自身が過去にそうだったように、専門職<資格・免許を持っている>がゆえの「プライド」意識でした。これは良い意味で持ち続けてほしいと思いますが、時には視野を狭くする根源になります。特に多職種チームで業務を行なう際、それぞれの職種の立場から意見が衝突しやすく、つい大切な問題を見失う事になります。そこで問題が起きた際、その優先順位を考えるよう最初に指導しました。一番目に、相手(患者様やご家族、又は他部署の職員)の事です。自分の立場や自己満足ではなく、相手の視点で物事を考えることです。そのためには、相手のところに足を運び、直接声を聞き、相手の視点に立つように意識する事です。二番目に「経営」です。病院も会社と同様、経営を実践しているところです。1人ひとりがコスト意識を持ち続けなければ、病院運営に影響が出てしまいます。そして三番目に、他の現場でも通用する専門知識と技術力を向上する事です。

私からの視点で職員に助言、指導、支援出来る事は、その職員にとっても新しい気づきであり成長出来るきっかけになります。特に20代、30代の職員は、この1年間非常に成長したように思います。彼ら、彼女らの吸収力はスポンジが水を吸っていくかのようであり、それが私にとっての成長でも有ります。

今後の人財育成で一番伝えたい事は、人とのつながり「コミュニケーション」ですが、あえて言うなら「人」の重要さです。マニュアル的な思考ではなく、気持ちの入った言葉が人間関係に必要なと思うからです。1人では仕事は出来ません。仕事をするにはそれに関わる人がいて、感謝し、助け合い、そして思いやりを持って行動すれば、必ず良い人間関係が出来ると信じています。

現在、私の他に1名まだまだ現役働き盛りの50代がいますが、これからも2人で若い職員を支えていきたいと思っております。失敗を恐れず、どんどんと他部署・多職種と向き合い、人と人とのつながりを大切に、視野を広げ人間として成長して欲しいものです。そして共和病院、共和会を引っ張る職員の成長が患者様へ反映されることを願っております。



第4回共和病院 研究発表会

平成25年3月9日(土)当院多目的ホールにて、第4回共和病院研究発表会を開催致しました。春の陽気を感じさせるほどの好天に恵まれ、院内外を合わせ約120名の方々に参加していただきました。実行委員長という大役を任せられながらも、私事で休みがちになり準備不足を心配しておりましたが、実際は実行委員会メンバーをはじめ多くの部署に助けられながら、何とか無事当日を迎え、職員の団結力を改めて感じました。

今回は発表内容も当院の特徴を表しており、精神科と内科に分かれた2部構成となりました。第1部の内容は精神科の患者様の就労支援や地域

生活支援を行なう作業療法士の発表、第2部は内科関連の発表となり、座長を務める当法人理事長 加藤 仁 医師が紹介した言葉にもあった、人間にとって大切な食べることについて、排泄について、最後は死についての内容となりました。第1部の1題目では1対1の関わりから患者様との信頼関係の大切さを、2題目では地域へ繋げるため多職種がどのように支援に関わってきたかの内容となりました。参加された方々の感想では「多職種、多機関支援のあり方がとてもわかりやすく勉強になった」「多職種が一緒に同じ方向を向いて動いている共和病院はこの先希望となっていく気がする」など、大変ありがたいご意見をいただきました。また、第1部の座長を務める当院顧問の後藤 陽夫 医師も、精神科医の立場からの話を交え、

当院が医師と連携をしっかりと取り合いながら患者様の支援を行なっている現状を皆様を知っていただく良い機会になったと思います。

第2部の1題目は、当院で行なっている嚥下造影検査からわかる事を言語聴覚士が、2題目は慢性的な便秘の患者様に、なるべく薬に頼らず自然な排便をと新しい試みを行なった事について看護師が発表しました。そして最後は当院での看取りの場面について、実際に体験されたご家族からいただいた貴重なご意見を紹介させていただき発表となりました。参加された方々の反響が多かったのは、やはり最後の発表で「エンゼルケアについての発表にとっても心を打たれた、今後この方法がすべての病院で取り入れてくれることを願います」「生前のように患者様をお見送り出来る事は素晴らしいと思いました」など、大変感動的な感想をいただきました。今後もこの研究発表会が、院内外の多くの方々に当院の取り組みを知っていただく良い機会になるのではないかと改めて感じました。

研究発表会 実行委員長 吉岐 円



発表後の交流会にもたくさんの皆様にご参加いただきました。

研究発表プログラム



15歳時から入院を繰り返した症例との就労支援を通じた関わり
〜1対1の関わりを継続すること〜
安藤 喬 (作業療法士)



地域生活実現に向けた支援の一事例
〜デイケア・作業療法、ケアホームでの実践を通して〜
朝倉 起己 (作業療法士)



食形態の違いによる嚥下の把握
〜嚥下造影検査からわかること〜
伊東 舞子 (言語聴覚士)



若年性パーキンソン病患者に腹臥位療法を試みて
久野 早苗 (看護師)



当院での逝去時看護の取り組みについて
〜その人らしさを追求したエンゼルケア〜
熊谷 貴子 (看護師)

介護職員を対象としたストーマ研修

平成24年、厚生労働省から合併症がなくストーマが安定している場合に、ストーマ装具の交換は医療行為にあたらぬとの判断がされました。同時に、ストーマ装具交換には教育を受けたものが望ましいとの見解が示されました。

それに伴い、2月23日(土)当院において、介護職員を対象に「ストーマ研修」を実施しました。講師は、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会会員で、名古屋大学大学院医学系研究科教授の前川厚子さんです。

当日は、当院の各病棟に所属する介護職員25名が参加しました。参加者がペアになっての研修会でしたが、先輩と新人のペアでは、前川講師の講義内容をかみ砕いて、新人に伝える先輩の姿がみられたり、同じ病棟同士のペアでは、自分が見たことのあるストーマ装具と研修で使用しているストーマ装具の違いや利便性の話が止まらないペアもありました。ユーモアあふれる前川講師のお話には、難しい講義の場が和み、楽しい研修でした。

学習の前半は、ストーマケアの基礎、介護に携わる人に必要な知識・技能、スキントラブルの見分け方、記録情報共有化を学び、後半は、ペットボトルのキャップをストーマにみたくて、ストーマ製品の装着練習をしたり、皮膚の撮影方法を、実際にカメラを使って行ないました。

解剖生理学の説明では理解することが難しい部分もあり、講義がとところどころ止まることもありましたが、前川講師が言葉を変えて何度も説明していただき、理解を深めることができました。ストーマの装具を実際に手にとり、形状の違いの意味を考えたり、装着しやすいタイプについて検討も行ないました。皮膚のケアでは、新しい保護剤を自分たちで試してみました。記録情報共有化では、ケアの要点や工夫を記録するために写真は有効であり、一目瞭然であることを再確認しました。ミニ確認テストなどで内容の確認を行ないながら講義は進行しました。

講義のとところどころで、前川講師は、ストーマ保有の方へのコミュニケーションについて、いくつか具体例をだして話され、介護職員として正しく前向きな知識と態度で関わるのが重要であると、熱く語られ一同頷く場面がありました。

今後はストーマ保有の患者様に対し、各病棟で一段階上の優しい適切な対応が実施していけると思います。

介護技術向上委員会 委員長 北浦めぐみ



※ストーマ(stoma)とは、消化管や尿路の疾患などにより、腹部に便又は尿を排泄するために増設された排泄弁のことです。

省エネ活動

当院は省エネ委員会を中心に、地球に優しい活動の一環として、院内の省エネ啓発や、職員全体の協力のもとペットボトルのキャップを集め、ワクチンへ変えるなどの活動を行なってきました。

このたびニチバン株式会社さんが取り組まれている「ニチバン巻心ECOプロジェクト」に参加し、ガムテープやセロハンテープなどの巻心を集め、ダンボールへの再生やマングローブの植樹活動に協力しました。

今後も、省エネ&エコ活動を通して、地球に優しい活動に参加していきたいと思えます。



▲感謝状をいただきました。

編集後記



花便り(鼻?花粉症?)が一段とにぎやかな(鼻をかむ音?)季節となりました。

春といえば花、食べ物、花粉症、入学です。毎年春になると息子と一緒に草花を見ながら、花粉症に悩まされ、畑にイチゴを取りに行っています。月日が

経つのは早いもので、今年はその息子が小学校に入学し、例年以上に春を満喫しています。

今年度も皆さんに楽しんでいただける広報誌にしていきたいと思えますので、よろしく願います。

広報誌委員会 三矢 恒昌

デイサービスセンター

ゆずの里

デイサービスセンター ゆずの里は、今年の1月1日、当法人のまごころ館1階に開所しました。

デイサービス(通所介護)は、介護保険サービスの中でも利用頻度の高いサービスであり、当事業所は、1日の定員が10名の小規模型通所介護事業所です。

サービス内容は、ご自宅にてお一人で過ごされることがご心配な方などが、安全に安心して過ごすことができるように、食事や入浴といった生活援助サービスを中心に、レクリエーションや公園への外出など、様々な活動を行っています。

また、ご自宅で閉じこもりがちな要介護者の方につきましては、ご家族以外の人と交流するいい機会にもなっており、現在ご利用されているご利用者のみなさまは、交流を目的とされる方が多いようです。

開所して4ヵ月を迎えますが、少しずつご利用者も増え、皆様にご協力していただき、センター内は日々笑い声が絶えません。

今後も、ご利用者の様々なご要望にお応えできるように、スタッフ一同邁進していきます。

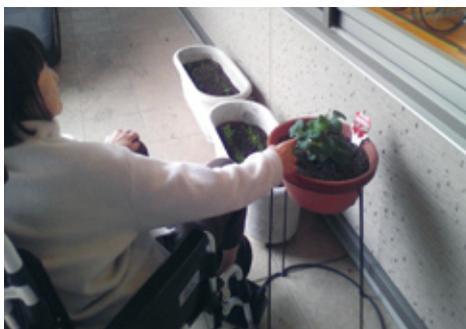
皆様もぜひご見学にいらしてください。



河津桜を観にお出かけです。



ラジオ体操は、毎日の日課です。



プランターでの園芸活動。ご利用者のみなさまは経験豊富な知識を発揮されています。

生活相談員 榎下 直浩

〒474-0071 愛知県大府市梶田町二丁目70番地
TEL: 0562-46-1301 FAX: 0562-46-1303

営業のご案内

定員：10名
実施地域：大府市、名古屋市緑区
サービス提供時間：9：15～16：25
休日：年末年始



お知らせ

- 8月1日(木) 盆踊り大会を開催します。場所/当院駐車場
- 8月10日(土)～8月13日(火) お盆につき外来診療を休診させていただきます。



共和会理念

『優しい医療・楽しい職場』

私たちが目指す『優しい医療』とは

- 患者様に安心と満足を提供する医療
- 良質且つ効率的な医療の提供
- 患者様へのサービスの充実

私たちが目指す『楽しい職場』とは

- 毎日の出勤が楽しくなる職場
- 職員のレベルアップと仕事の充実が感じられる職場
- 職員の満足が患者様へ反映される職場

基本方針

～当院をご利用の皆様へ～

わたしたちは、利用者の皆様が安全かつ納得のいく医療を受けていただくことを目指し、それぞれの尊厳を大切に、思いやりのある医療を提供します。さらに、地域関係機関との密接な関係を保ち、地域の医療水準の向上に努めます。

1. あなたは、個人的な背景の違いや病気の性質などにかかわらず、必要な医療を受けることができます。
2. あなたは、医療の内容、その危険性および回復の可能性についてあなたが理解できる言葉で説明を受け、それを十分納得して同意したのちに、医療を受けることができます。ただし、必要に応じて主治医の判断によってご家族、代理の方にお話をする場合もあります。
3. あなたは、今受けている治療、処置、検査、看護・介護、食事その他についてご自分の希望を申し出ることができます。また、他の医療機関に転院したい場合は、必要な情報を提供致します。
4. あなたの医療上の個人情報保護されます。
5. あなたの社会でよりよい生活が提供されるよう、地域関係機関との連携を図ります。



特定医療法人 共和会

共和病院

愛知県大府市梶田町2-123

TEL.0562-46-2222(代)

URL <http://www.kyowa.or.jp/>